

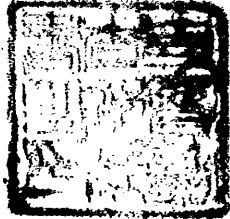
0528
0396
1-06
2923

(151)

(第三十三特別根據地隊戦闘情況別冊)

第三十三特別根據地隊戦闘經過概要

0529



447
22. p. 26

0530

0397

昭和十九年八月経過概要

日

記

事

五

第三十三特別根據地隊編制令発令

同司令部職員発令

十六

全右横濱奔進出(航空便)

十八

全右「マニラ」着

GKF

JKF

司令部ニ於テ打合せヲ行フ

PP

二十三

全右「セ」着(航空便)

校務上舊税関ニ付旗ヲ掲グ

二十八

司令部ヲ「マニラ」通 舊水文社ニ移ス

二十九

各部隊巡視監視家

三十

三十一

阿部館山海軍砲術学校長以下現地指導班着

復

備考

「レガスピ」派遣隊長佐藤中佐着任

33 昭司司令部要員及本部警備隊

吳ニ於テ編制待校（一部ハ第三十六警備隊ヨリ分割補充）

「タクロボン」派遣隊

吳ニ於テ編制待校

「レガスピ」派遣隊

九八防立隊（長柳原中尉高島砲隊）

館山海軍砲術学校ニ於テ編制待校

復員省

昭和十九年九月経過概要

日

記

事

三

原田司令官志柿先任参謀現地指導班ト共ニ「タクロビン」
着（航空便）

各部隊巡視経視察 16Dト現地作戦協定ヲ行フ

四 五 六

今右「タクロビン」着「カスビー」着（航空便）
「カスビー」派遣隊長佐藤中佐着任

各部隊巡視経視察 現地陸軍旅团长ト現地作戦協定ヲ行フ

七 八 九

原田司令官「タクロビン」帰着（航空便）

志柿先任参謀 現地指導班ト共ニ「マニラ」着（航空便）
一三〇。頃「バオ」敵上陸ノ報アリ

22sf マミラヨリ「セ」ニ進出

二一〇。頃志柿先任参謀セ「帰着」(22sfニ便乗)

十 「カハオ」敵上陸ハ誤報ナリレト判明

十一 22sfノ大部「セ」ニ入「マミラ」ニ帰投

十二 敵KAB中部薩島地区大空襲 被害甚大

十三 人々右

「セ」 戦果 地上砲火ニヨリ約十機撃墜

被害 在泊艦艇陸上諸施設殆んど潰滅

飛行機約八十機中約五十機焼失又ハ被撃墜

「バコロ」戦果 地上砲火ニヨリ二三機撃墜

被害 在泊艦艇及陸上諸施設殆んど潰滅

十四 敵KAB「スリガオ」地区大空襲 被害甚大

市街地ノ過半焼失在泊艦艇行舟艇全部沈没

十八

当隊麾下部隊マニラに着

十九

人魚ノ大部及搭載物件ノ一部揚陸

二十

在マニラニ繼續ニ避退下令

二十一

マニラ地区大空襲 当隊麾下部隊甲兵器物品全部焼失又沈没

二十四

敵ヲサマルル島東方海面ニ出現ツケテ「ブーラン」ツレガスピール
地区ニ未だ散

戦果

不明ナルモ殆ンドナシ

被害

海軍中ノ船隻被害甚大

復員

昭和十九年十月経過概要

日記

事

日

上旬

一、スルアン島見張所ヨリ敵潜水艦出沒ノ報頻繁
 二、在「セブ」水上機隊ニ依頼因方面偵察攻撃ヲ実施
 三、スルアン島見張所ヨリ左ノ報告アリ

東方水平線上敵艦ヲ見キ煤煙見ユ

敵空母ニ発着艦スルヲ飛行機ヲ認ム

二、敵機「セブ」北方海面ニ出沒機帆船ヲ以テ進出中ノ態

下部隊被害甚大

三、在「セブ」ハ「サンボア」ガ行板雷ニ干由機帆船ヲ撃ツ

トバンニ送付(成功)

四、タクロバン派遣隊長竹谷大尉第三十六警備隊司令竹

下大佐着任支任地ニ白ク赴任

旬

中

十八

GF捷一号作戦発動

十七

敵スルアンシ島上陸
ライテ湾掃海開始
タクロバン派遣隊ヲ第十六師團長ノ指揮下ニスル

敵官ヲ開始ス

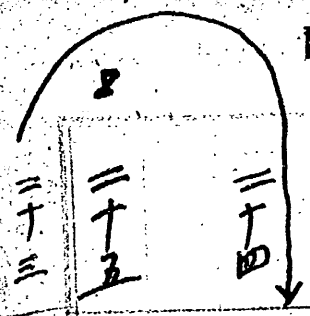
先設基隊(中佐片桐敏朗)ヲオモツク飛行場設営中止
タクロバンニ進出 其ノ対山行カヒネ岬ニ ④ 基地

戦死 乗員コトニ島ニ上陸
方々ニシテ島中ヲ巡察シテ全隊ノ為ニ全部沈没司令

十四(?)

藤城守村以下約十五名十四糧砲二門(?)其他若干
先奔隊トシテ「マニラ」ヨリ「タクロバン」着(極帆船便)

十六(?) 先奔隊トシテ「マニラ」ヨリ「タクロバン」着(極帆船便)
先奔隊トシテ「マニラ」ヨリ「タクロバン」着(極帆船便)
先奔隊トシテ「マニラ」ヨリ「タクロバン」着(極帆船便)



三、三六聖司司令大佐以下重豊以下約八十名被炸死及大発射機がコソコソヨリ
 カクロバンニ進出中「ビロラン島」(レイテ島の北方)沖ニテ爆撃ノ物全介況
 況又ハ被爆司令官戦死東島「ビロラン島」上陸(總約半月後「セゴ」ニ収容)

十九

一、レイテ島東方ニ敵攻略部隊出現
 二、敵KB連続「タクロバン」「ドラグ」地区猛爆陣地諸施設

二十

一、敵KB「レイテ」島大爆撃中
 二、敵ハ艦砲援護射撃下ニ「タクロバン」「ドラグ」地区ニ

上陸開始

「タクロバン」地区防衛ヲ担當セル海軍部隊ハ逐次後退

上中街地帯表山陣地ニ據ル

二十一

「レガスピ」派遣隊ハ「サンベルナル」島ニ據ル
 魚雷艇ニ復日海峡巡遊

魚雷艇ニ復日海峡巡遊

二十四

「IB」フ「レパン」海ニ於テ敵KBノ攻撃ヲ受ケテ、夜間東
 進夜間「サンベルナル」海峡通過

二十五

「IB」フ「サール」島東方海面ニ於テ敵空母群ト遭遇交戦
 「IB」フ「サール」島東方海面ニ於テ敵空母群ト遭遇交戦

二十三

「IB」フ「サール」島東方海面ニ於テ敵空母群ト遭遇交戦



(第十六師団「サール」派遣隊日記)

ニIB別動隊「スリ」がオ海峡ニ「レイ」灣内敵攻略部隊ト交戦ニ成扶桑大火災(山城飛行長聖朝「セ」着報者)

③16S「カガヤン」ヨリ「コレモ」ニ陸兵輸送成功(第三十師団)

ノ一部)

二十六 敵「レイ」上陸部隊「ク」ロバン「ド」ラ「グ」地区ニ橋頭堡ヲ設ケ戦果擴大中

二十七 「レイ」上陸後我空戦熾烈
「オ」ル「セ」揚揚接援護ノ為機帆船一大隊ヲTM電使機

ヲ「セ」「セ」

二十九 敵KB「マ」ニ「ク」ラ「ク」地区空襲

「サ」ニ「ル」タル「ゲ」ノ海峡ノ点燈ヲ止メ警戒ヲ解ク

下 旬

魚雷艇二隻被彈火災

三ノオルモツクト通信可能

一甲標的の四隻輸送艦二隻ニテ「セブ」着

ニ此頃「ネグロス」島南東端「ソマゲテ」ニ魚雷艇系

甲標的の前進基地設定

系此頃「ヒカサ」地中ヲ雷隊ヲ除キ弟軍ニ特別

根據地隊ヲ編入

昭和十九年十一月経過概要

日

上記

事

(及260先遣支隊)

- 一 多号第二次作戦(第一師団輸送)「オルモック」突入成功
 第三十五軍司令部本部多号第二次作戦部隊ノ
 輸送艦一隻ニテ「オルモック」進出
 島海陸軍部隊ノ指揮ヲ執ル
- 二 第一師団ハ直ケニ「カリガラ」ニ向ケ北上
 同地方面空襲頻數アリ
- 三 「アマミラ」バタシガス敵艦上校来襲
 二TM電信校ヲ「オルモック」ニ揚陸海陸軍ノ通信担当
 三「オルモック」揚格援助中ノ舟艇「セブ」帰着(日?)
- 四 「オルモック」揚格援助ノ舟艇三隻再返「セブ」

八

多摩第四次作戦 (P 15d dx6 chx4 Tx3) = 二。頃ッオルモツク突入
人員之揚陸 (26D 主力?)

九

多摩第三次作戦 (P 25d 島風 浩波 Wx1 chx1 Tx5) 計画
170ノ大部ヲスル海又ハ7ミシダナオ海ニ進出間接援護

上

一初頭ヨリ兼甲標的ヲ以テカガオ水道南口哨戒
二卑一魚雷艇ニヲ以テ第5軍參謀長和知中将
以下軍幕僚ヲオルモツクニ送^(送)火船途^(送)カモテス島

旬

北方ニ在テ敵魚雷艇五隻ト交戦一沈没他十
二魚雷艇隊司令丹羽少佐戦死

十一

多摩第三次作戦向隊空襲ニヨリカガオ^(送)附^(送)ニテ
漫滅^(送)御用^(送) (26D 整備及軍需品 軍直打隊?)

十二

10カリカラ^(送)総攻撃^(送)成功ニ至^(送)ス
一カガオ水道北口バト^(送)西方海面ニ横帆船ニ隻ヲ以

中

旬

一 二回二日ノ極密敷設

二 極密敷設ノ為 甲標的ノカガオレ水道哨戒ヲ止メ

一 浦後ヲ「アトロ」諸島ヨリ「オルモック」沿岸ニ至ル索

敵艦沿岸敵情偵察實施

三 在「セ」水上機隊當隊作戰指揮下ニ入ル

陸上機隊ト協力シ「カモテ」ニ海軍敵攻撃

實施

四 此頃當隊司令部ヲ「中政府表山」横孔附近

ニ移ス

五 第五十五軍司令部ト第十六師團ト連絡取リ

同師團ハ「ユヤグ」山東側ニ陣地占領 残存兵力

約一五〇〇 (第五十五軍各謀渡中佐談)

六 多年第二次又ハ第四次作戰事部隊ニ海軍防空隊

中

旬

(十三 戦機銃) 一隊及山根大尉「オルモツ」着
 山根大尉「オルモツ」海軍通信隊長ヲ命ズ
 七「タラバ」派遣隊長竹谷大尉以下約九。(ア)「オル
 モツ」ニ後退ヲ命ゼラシ同地着海軍防空隊ヲ指
 揮ス
 ハ「オラ」ゴ水道(セブ)島「ボホル」島間(南口)ニ候
 雷敷設

二十四

タラバ第五次作戦(輸送)「マスバ」島東山行「カライ
 ン」海ニテ臺向退避泊中空襲夜ヨリ沈没人魚物
 件揚陸

二十六

和号作戦「ロイヤ」飛行場奪回作戦)ニ移行
 我「レイ」空襲夜敵執力封止ニ至ラス

二十七

二十八

第六次タラバ作戦成功

三十

第七次多摩川作戦 (SSX3 6x2) 「イゴール」突入成功

(オレモック湾)

下

此頃第三十三特別根拠地隊が魚雷艇ヲ當隊
艦下ニ編入セラレタル中ノ消耗多ク僅ク
一隻ノミ「ゾクゲ」ニ經由セ「ゾク」着

「カスピ」派遣隊ハ独立シテ第三十五等隊トナリ
三上特別根拠地隊ニ編入セラル

昭和十九年十一月経過概要

A

記

事

- 二 多号第七次作戦(桑、竹、輸)揚格中敵水上部隊(C 又ハ約三隻魚雷敷敷)ト交戦
- 五 第十六師団(ドラウエン)飛行場ニ新込突入飛行場奪回
- 六 陸軍(ドラウエン)機空抵隊「ドラウエン」飛行場突入成功
- 七 早朝「オルモック」アルベラニ敵上陸開始
- 二 多号第八次作戦(dx3, chx2, SBx1, Tx4)「オルモック」ニ突入SB及丁掘度揚格及ch掃途ニワリ
- 本件戦ニ在リ伊東徳夫少佐ノ指揮ニ海軍陸戦隊(水陸両用戦車約五)自砲十數門ヲ含む「オルモック」ニ

上陸直下ニ戦闘

(註) 第二次世界大戦航歴(乙) 第一号ニハ本外戦

ヲフミンドロニ入泊トナレドモ 敵ト混濁シテ

「オレモツク」ニ突入上陸シ「オレモ」ヲ記憶スル

「~~オレモ~~」ニ付本外戦ハ「オレモツク」ニ突入シ

「オレモ」ノ誤ト認ム

三、218 出發多勢ヲ下令

九

第九号輸送艦「セブ」着第甲標的ニ隻及整備
班到着 輸送艦自夜戦傷病兵在る知人滿載

出港

十

敵艦団「カモ」島南西方ニ飛来行状報

多少直下ニ海陸軍部隊陸戦陣地ニ就ク

「オレモツク」附近ニ敵一ヶ師上陸

上 旬

十一

一、和号作戦ハ一時成功セルニ維持困難ト敵ガ「オルモック」ニ
 上陸セルヲ九日頃飛行場「アリ」ニ対空兵器約四〇〇ヲ
 破壊シテ遂ニ放棄セルニ由リ北地ニ其基
 自注自戦ヲ放棄セル「オルモック」作戦ニ移ル
 二、此頃「バレンシア」飛行場ハ敵米比軍ノ攻撃ヲ受ケ
 難免備中ノ海軍台灣巡査隊約七〇ハ至碎（皮
 一着「セブ」ニ逃レ報告セ）
 三、敵部隊「カモ」島南方ヲ西進中トノ飛行機報ア
 リ直ニ海陸軍部隊陸戦陣地ニ親ク或主身向
 聖朝右ハ地点符字ノ取上進ニテ「カモ」水道ニ向ヒ
 「カモ」ノ誤「カモ」ト判明配備ヲ解キ極力陣地構築
 ヲ促進ス

多年ノ第九次作戦部隊「カモ」島北部東方海面ニ於

十三

テ空襲ヲ受ケ企圖挫折シ「サイレド」
 附近ニ沈没又ハ擱座概ル人員之上陸(68BS 高階隊)
 「ミンダナオ」島北岸「マセラゴ」湾(セブ島村山岸)
 敵大船団碇泊一部揚陸中ナル旨「バコロ」陸軍校
 ノ報アリ

「バコロ」

十四

「セブ」海軍校直々出奔偵察大船団ハ北又ハ北西ニ
 移動中ヲ報ス
 「セブ」陸海軍部隊陸戦陣地ニ就キ可動甲標的ニ隻
 魚雷艇ニ隻ヲ以テ「ボホ」水道ヲ警戒ス
 敵船団ハ「バコロ」西岸ヲ北上ス(飛行機報)
 「バコロ」地区海軍部隊ヲ陸軍是旨指揮官ノ指
 揮トスル
 「セブ」海陸軍部隊ハ陸戦配備ヲ撤シタルニ大部リ

<p>二十五</p>	<p>米軍のルンポーンに上陸</p>
<p>下旬</p>	<p>初頭レイテ島陸上部隊ハレイテ島北西部ヒリヤバ地帯ニ集結ニ快ス(此時人員約七十名ナリニアラガヤト記憶)</p>
<p>二十六</p>	<p>甲標的ニ隻及前進其土地増強隊ヲゾマゲラニ向</p>
<p>中旬</p>	<p>ケラセラニ奔</p>
<p>十五</p>	<p>陣地ニ残シ急遽陣地強化促進 敵船園ヲミンドロ島ヲサンホセ上陸開始 一部ハバラン島ヲポートプリンス上陸セル標隊 ケラセラ南カヲシリサイ沖ニ機雷浅洋没敷設</p>

明 上 旬

改修致奴

レイテ陸上部隊ハ概ネ、ピリヤバ地区ニ集結自決自
戦態執カマトル
マノロバン派遣隊長竹岩大尉ハ「バンカー」便ニ托レ
知「司人」ニ状況ヲ報告セリ

昭和二十一年一月経過概要

日 記 事

一	甲標的ニ隻大群一隻ヲブツケテ着符候 「ミンダナオ」海甲標的作戦開始
三	敵KBB台湾沖縄空襲
六	敵艦隊「リガエ」湾ニ侵入
十一	敵KBB南支那海侵入
十八	第三十三特別根拠地隊既屬甲標的ニ隻「サンボア」 ガ入
二十一	同右「ブツケ」着整備補給
二十六	同右「セブ」着当隊作戦指揮下ニ入
子時	時様ヲ記憶スルニ概ル此頃敵「リガエ」艦隊 ミ上陸北東方ヨリ「ホム」島「ホム」島「ホム」島ニ進

日	昭和二十年二月経過概要 事
三	敵マニラ侵入
十	当隊司令部ヲ陸戦陣地ニ移ス
十六	コレヒドールニ敵上陸
旬上	<p>攻</p> <p>時限ハ記憶ナルモ概ニ此頃敵カモリス諸島ニ上陸北東方ヨリ逐次「ホニシ」島「ホロ」島「兼球」島「ハシヤシ」島ニ逐次来</p>

昭和二十年三月経過概要

日記 事

日	記
五	マニラ方面戦闘終結 フィリピンに敵上陸
九	GKF長官ヨリ海軍甲標的作戦関係員ニ対シ感状授典 セラン
十八	市南方カリサイレ
二十六	敵マニラに上陸開始 第五師団長「セグ」海陸軍部隊ノ指揮ヲ執ル 三「セグ」海陸軍部隊直下ニ陸戦陣地ニ就キ新込作 戦開始
二十七	四夜甲標的一隻第三十五軍司令部ヲ「セグ」 島北部ニ迫ヘ「セグ」帰着 海軍司令部ニ海陸軍最高指揮官集合第三十五軍

0421 52

0554

司令官ヨリ爾後ノ外戰ニ関シ命令アリ
同夜半軍司令官及ハフミンダオスル約ニ波ニ有
ニ白ケルナリ

昭和二十年四月経過概要

日 記 事

九 敵ヲホロ上陸

十三 敵ヲホロ上陸

敵ハセブシ市南側附近ノ陸軍陣地ヲ突破テ

二師團司令部ヲ戦闘司令部ヲ襲ヒ進出背面

攻撃ヲ企圖ス

十四 敵部隊北方転進ヲ命令

十六 左右転進開始

十七 敵軍司令部官(副官)ト幕僚ト連絡ヲ

断リ

司令部ハハリロアニシテ経テ海岸道ヲ北上ラダゴボニ着

シテ海軍部隊ヲ率ヒ二師團長ノ指揮下ニ入ル

9590

24

0423

二人
(?)

志柳先任多謀部隊ハ逐次海陸軍部隊ヲ収容
ソゴトド北西地区着第百ニ師団長ノ指揮下ニ歸入ス

昭和二十年五月経過概要

日

上記

車

(南方)

一

志村先任参謀部隊(南後海軍支隊ト呼称ス)ハ
 下カトモニ西方地区ニ指定セラルレ因次第自決自戦開始

一各隊次第ニ集ル

上

二陸軍貨物廠(在留邦人妻約五〇〇名)自動車廠
 陸軍病院等米戦隊員約一〇〇〇名ヲ津浦線
 津浦線北側トシテ入ル海軍地区ノ中央ニ入レラレ志村

旬

参謀ノ区上知ヲ受ケシラレ

中旬

敵ハ次第ニ海軍支隊ノ四圍ヲ包圍ス

0424

下旬

一第百二師團司令部ノ隊(大西独立大隊直率)ハソ
 ゴツト南西約十五軒五百米高地ニ向テ途中海軍
 地区ノ西方ニ於テ敵ト交戦引返シタル後消息不明

0557

28

下 旬

浦後陸軍部隊ヲシテ三回強行中連結ヲ行ハシム
ルニ消息逐ニ不明

二十九日(?)ノ頃敵ノ包圍攻撃最高潮ニ達シ危機
切迫地区内ノ海陸軍淋戦闘員部隊約四

〇〇餘ヲ南方ニ脱出セシム

三、翌三十日(?)ノ海軍補給隊南方ニ脱出翌日海軍
淋戦闘員部隊(補給隊施設工外隊在留邦人)

ニ合同

昭和二十一年六月経過概要

日

記

事

一(?)

第百二師團司令部ノ所在判明
海軍補給隊五百米高地南方馬蹄形高地ニ向テ移

動開始

五(?)

一移動ノ途中第百二師團司令部ト連絡成リ新
馬蹄形高地東半部ニ地区ヲ指定セラル

ニ夕刻敵約千名以上ト遭遇交戦

十(?)

海軍補給隊司令部ノ隊先奔隊トテリ敵ノ重圍ヲ
突破南方ニ脱出指定地区着後續部隊収容

態勢ガリ執ル

十五(?)

後續部隊敵ノ攻撃ヲ受テ師團司令部ノ隊地区
内ニ後援ノ一部ニ侵入

二十(三) 後續部隊(根來大佐指揮)捜索ノ為ニ第百ニ師團司令部
ニ連絡十七日頃配備編制ヲ変更セラル海

軍之隊ハ第一師團長ノ指揮下ニ移サレタルヲ知ル

ニ後續部隊ハ配備変更ヲ前日北方ニ転進南

始

三 海軍支隊先奔隊敵ノ重圍ニ陥ル

二十五(一) 海軍支隊先奔隊北方脱出不成功

二十四(一) 台右南方脱出不成功

二十五(二) 台右西方ニ移進北方転進ニ移ル

二十六(一) 西方ニ迂迴中司令部ヨリ連絡將校ニ遭過命

ニヨリ海軍支隊ハアズトリマス(セブ島西方)ノ東

方約二十料ニ占位スルニ快シ海軍支隊先奔隊ハ

内地ニ向?

三十(？)

二司令左ハ南~~中~~各隊ヲ区~~々~~ニシテ南ト母五百米
 高地西側地区ニ九岩第一大隊ト共ニアリ
 海軍~~陸軍~~先鋒隊目的地着
 上衛藤冬謀司令官迎ヒノ為ニ

昭和二十年七月経過概要

日 記 事

十日

第百二師団長ノ命ニヨリ 海軍南方支隊ハ五百米高地北
方地区ニ向テ前進開始

十一日

海軍南方支隊司令官友ニ会合（マラリア）次第ニ蔓延シ
兆アリ

二十日

海軍南方支隊母五百米高地西南部地区着
マラリアニ蔓延シ 行軍不能ニ陥ル

昭和二十年八月経過概要

記事

日 新聞電報ヨリソ縣村日直戦布告ヲ知ル

十六日

新聞電報ヨリ

東久通上為殿下ニ詔閣ノ大命トテリ意味不明瞭ナラ

米軍飛行機撤布ノ第一師團各機長ノ伝言ニ

十八日

ヨリ停戦協定同師團停戦協定締結ヲ知ル

二十日

司令官停戦協定ノ有ハソグラニニ白ケテ

二十一日

海軍部隊米軍ト停戦協定締結

二十二日

海軍南方支隊ハソグラニ又ハソグラニニ白ケテ

二十三日

海軍南方支隊ノ大部令加着 武装ヲ解除ス